



第15回

住まい備忘録

④日本建築家協会 沖縄支部 幹事

久高 多美子 (練東設計工房)

人・地域にとけ込む

昨年末、蒸暑地域住宅シンポジウムのパネリストとして参加させていた、ただ事になった事もあり、折に触れこれまでの設計



リビングダイニングは2つのデッキとつながる

活動を振り返ることができ、日常の業務を検証するいい機会になりました。私たちがプランを始め、前にお客さまにお願いすることのひとつに、どんな家にしたのか箇条書きで構わないので要望を書いていただいています。ヒヤリングの内容も含めてメモに残すことを心がけています。その中で感じることは①風通しが良い涼しい家、②明るい家—の2点はあたり前のようですが、どなたも共通して記載があることです。如何に沖縄の長い夏の暑さに苦慮されているか伺い知ることができ

る”と大変うれしい言葉をいただいた。スタートした思い出深い住まいづくりです。もちろん構造は鉄骨造り、手掛けてきました混構造を提案、鉄筋コンクリートの堅固な壁、屋根は輻射熱を遮る木造小屋組で赤かわら葺きです。大きく南に開いたリビングは雨端柱で支えた軒の深いヌレエンで庭と繋ぎ、反対の北東側はダイニングと繋がるプライベートデッキを配置しました。自然志向のご家族は休日になるとアルミサッシュを開け放ち、敷地いっぱい拡がる空間と涼風を親類や友人、仲間達と楽しんでいらっしゃる様子。

立地、予算と、いろいろな制約のある中「Kさんらしい家」「この地域に相応しい家」とは？と試行錯誤した中

空気のように初めて完成

でたどり着いた「Kさん家族の為に住まい」。竣工してもうすぐ2年、「ダイニングテーブルが入りました」「金木犀の木を植えました」と時々うれしいメールが届きます。昨年の夏のバーベキューパーティーに次いで今週末は鍋パーティーへのお誘いがあります。屋根のシーサーと初顔合わせになるのか密かに期待しています。建築は住みこなして完成して行くもの、空気のような存在になって初めて完成だと言われます。施主と設計者と言ふより友人？(知人)の関係、時にはアドバイザーとして見守り続けて行けることを願っています。いつの日か、Kさんが愛情を込めて育てている生垣の低木が成長して緑に覆われてその隙間から赤瓦の屋根が見え隠れする景色を夢見て…。



混構造住宅